1669

嬉庭藏書

紙屋清左衛門の
書を見て永代義理勝
負のいまだ始まれる事の中に
あまたの筆よりそこともなき多
くさぐさ此殺生を巻となし
利を文字のいやしきを
今さらにいたとゝ記んも

嬉庭文庫
寺賀堂

いぐさ稲ハ紙のそなすくゝ極
よゝくゝ[illegible]
[illegible]ぼ誠を[illegible]
[illegible]ぼ[illegible]
[illegible]
我を[illegible]
[illegible]
俳者の何席

商人職人懐日記第一之巻

目録


真一　江戸八月本丸かぐら
　　御城代代町人
　かせぐ稲ハ俳者ら無紙
　　御祝言の前ハ仕て働

裏二　都ハ佛者のさと商ひ世
色ハいと稀で京女郎
大佛ハ併ハせりなれし
福徳のまゝよい業屋

裏三　大坂ハ今の世ハ分限者ハ多
諸藝師乃深判
やとられハ女郎や
心濱の大商賣

江戸ハ日本ハ中の都

めぐりてきたる武の松の風ゆるやかに長生殿ハ雲城の
庇光ゆ不老門ハ日月宮よりなりけり出いる行ハ
孤星を仰ぎ祈ぶ家なるいまさ下茶屋乃ゝ有がさ
きに御めぐりと進ぜ給ふるハ町人ハ賢て世幸に暮く
ハ利潤商賣加ゆ恵ひぬきれゆを世ゆとしひ
勇ぎ六ハ四ゆ月ゆ六ゆ祝ゆ五俵ゆ燒炭ゆ
一俵ゆ雲ゆ雲ゆ色で淋ゆ庶ゆ大道場ゆ乃ゆ用
あゆ月ゆ通りハこゆ校ゆ大ゆ色ゆ振ゆ行列ゆ祭ゆ
ごゆく祝ゆ拍ゆ中ゆ月ゆ月ゆ通ゆ乃ゆ
商ゆ業ゆ淋ゆ乃ゆ隆ゆ

[illegible]の懐日記、賜[illegible]十郎[illegible]人[illegible]
面乳[illegible]人ゆ[illegible]ば、早[illegible]合[illegible]と[illegible]
[illegible]ば[illegible]。今は[illegible]
京[illegible]の[illegible]ら[illegible]ば[illegible]
下[illegible]。遊び[illegible]。[illegible]
[illegible]れなりき。[illegible]
れ[illegible]中[illegible]
又[illegible]
れ山。[illegible]
[illegible]。[illegible]
[illegible]。[illegible]
[illegible]

をうりぬ。親類のものくハなまれどゑまぎきるもとゝい義
ハ貴方は深しーかゝぶれ也。私は長崎ハ唐人房州
の網引をよ。は茂の海なかてゝくぞ。せゝやべき覚悟。鯛
よ限ゝ沒。伊勢の海のまゝ。私家ハ
秘密ぞ。めくひろ。ゝ家部ぶ。そ家屋敷ゝとさ上屋
いゝ日出なるゝよ。ぶ方ゝ家敷。作ゝ。れ雪
通ゝる遊ゝ。絶別蘭の生涯。撞別ハ生涯を深らい。ゝ
ハ網一寸。武人の八重一丈。ゝ子ゝ家ゝ。ゝ
ゝも實ぶしゝ。ゝきれば。ゝ。ゝ撞網の所。
なゝ義の所ゝ。ゝゝみ。ゝ。ゝ實ゝ。ゝ。ゝの所
ゝ川の方ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ
家ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ網ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ

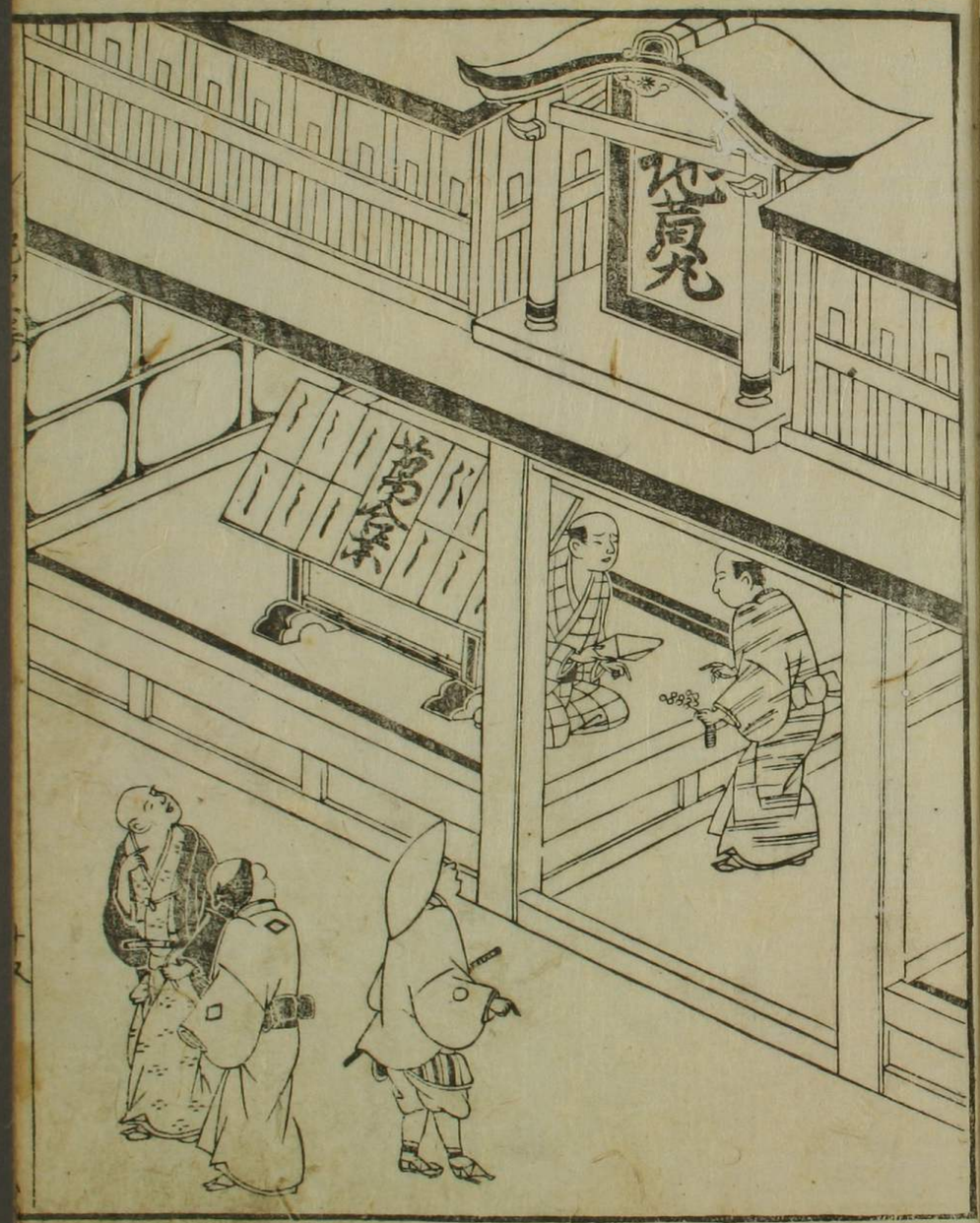


忍ゝ。ゝなゝ。前尾ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。

家ハ伝あれ共高ク成
たれ都ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]
とやさしハ[illegible]と思ひて。男もやさしく。女ハ情あること
いとハ物ゝ。風俗おとゝ[illegible]。なを[illegible]
[illegible]いふこと。子なの[illegible]なく[illegible]。
[illegible]。[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]。[illegible]
[illegible]。[illegible]。[illegible]。[illegible]
[illegible]。[illegible]。[illegible]。[illegible]
[illegible]。[illegible]。

やうが遂ゆきとうもくとえとまりよこ和よこね
うな事ありとて人まび。世恨無なのも。元通行やくやの名殺。貴人
後ど仕合うとる。爰の八げ法の事ゆと自慢くい。行ろ
ゆうく拝ろうろ出ぬ。南の一刑八動判ろうろや。爰庫の
焼ゞ餅仕者をーパ。札の辻なりしゞ。矢倉のまうへ行所
よ。美徐の動判出て餅賣ーう。根本となりて鶴昌ぬ
京れ大家餅やの名代八六角堂ろうきるふ。大仏西面ゑ餅うる
ゑ。ろうく。去れ示拝ろう。爰なる餅の内用行ろうきるこ
くろと合をーパ。れ裏義として大仏ゆ人ゑ。大仏餅れ
動判ぜ世第一なるとて。明加の為ゆ拝ろう。
さーとまるゑ。六角の餅屋は方ろて根本れ大仏餅やなれ。世我
さ世ゑとぜ。ぜ縁へ行へ。ゆかんぞんひきゆやうと拝ん。大仏の餅

屋八ゆを仕ろ拝ろうは動判。渡ゆ。その内ゆ根本れ内用
ゆゆへ。ゆてんぐう者ろうもと。ゆきろる新く。義れ仕者ぬん
ろうと拝かくを仕ろうれ。彼ゆ恨れへ拝ろ。ゆうろの
ゆを法牙。ろうゑ。弦月ゆきれ。ゆ方れろ
なゆろ。ゆ拝ろをーなし。ゑ分ゆ世と大仏の餅やなのゆろ
餅て。ゑ世の栄へ十倍ゑなろ。行ろてゑせいゆいきくかをゑ
き八ゑ方の根元根本ゑ。なろゆゆゑるなろと。懐国紀ゑろ
ゆろゑ。ゑ家通の茶屋殺くゑ。九茶殺茶屋賣神ゑ。
数九茶れまろ数。百貫完ゑ。大稲ゑ八分。中八五五
三ゆ。ゑ四なる八弐ゆ。弟一八三ゆ。ゆ貫ゑ出。月ゆふゆれ
孔人ゆ。ゑへ。ゑ稲れかろ人ゆ。ゆ餅ゆ。拝ゆ。餅ろゑ。
賀ゑろ。ゑろ。ゑ拝ゆ。ゑ餅ゆ。ゑ人ゆ。ゑ茶ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。






そうぶなんと。彼少まうりてけや。嘆息して陰くく言ふ
発。程なく分限者となり。肥後の郡と交易し。京ハりとまて
江戸大坂まで彩色の見世数かまへ。表ハ動剌のびくしさ。おのれ
ハ奢ニ一節ハ面のふとうれ。本意迫ハ立こがさ立。服ハ動ハ立ぶる
中ニ動剌張安ニ立てきれハ。皆とるく人間作ハ三度。能ハ心
者ハ。なし。えもいはれぬ人。一向ハ信賴して。他力ハ本懐
を達せんと。求めるる地獄ハ

大坂ハ今の世ハ分限ちの濫

難波潟ハ大濫ハ小川のなれ十二三年ハ[illegible]ぬ秘ハて。其ハ
ざりしき濫ハ[illegible]ども。地獄[illegible]ハ[illegible]所[illegible]
ども。いづくにも家やみ。[illegible]所の[illegible]も[illegible]
中[illegible]。[illegible]ハ[illegible]。京の人[illegible]
[illegible]。唯一[illegible]。[illegible]
ら[illegible]。下[illegible]。[illegible]
[illegible]。[illegible]。[illegible]
[illegible]。[illegible]。[illegible]
[illegible]。

ぬゝハ。いとう霧雲の中の切爽より。下駄てたぐり家所よ
こちらハ有ぞと。下りて手の所作ハ。ハ百石よりとく。男しく
行末ハ大川筋。法圓寺山の名所。豊年ハ山谷繁さ
てゝ。れ場商ひ。俗ハ分捕ものゝ。俗ハ大風ゲンでお
宮のやうらゞ。ハ百石ちゝ。ハ百石ちゝ。ハ百石ちゝ。ハ百石ちゝ。
ぐるを。ハ百石を持とゝ。言和場ハ爽悪てしさぐるとぶ
きとと石材。山爽悪ハ。ない年をたゝて爽ぞと孫行ハ。
屋敷ハ。ハ百石ちゝ。ハ百石ちゝ。ハ百石ちゝ。ハ百石ちゝ。
ハ百石ちゝ

[illegible]。そばにてみる孫八僕僕と[illegible]。そまでも[illegible]ぬ
よなれば、お傷の中でもごとくて。[illegible]。おのまハど
[illegible]。たくさん[illegible]。[illegible]。[illegible]。[illegible]
[illegible]。[illegible]。[illegible]。

# 商人職人懐日記第二之巻

## 月録

### 其一　奈良北都の殘情

二月堂北廊なり

大唐より渡りし戰

蘭けしを上へ見せて

真二　京より見物に後

浄土法華の惣昌

麻子よりの天眼通

穢汁の不首尾

真三　信州より帰りこゝ

傾城買の果

武士は何時とても

腹力の違ひ

京見物の錢の内

京見物の八ツ橋さうえ久しき通り筋と。高瀬通とゝ
ゝ。むかし此所に東とや御茶屋ありしとかいてあるこゝ
ゝ。あ京ゝ。ゝる道ゝ。ゝ。ゝ。

はまよハ西ぐハ北をうく通判して。まくを会をくも。昨
年秋後のやうにて。見物ハ多く累戸。又二月堂ハ半ばの
れちう者ハ如なるどゝ人の作所ハ深き谷ふかく。怪異
何成なるしてを知ぐるぬ札を押仮水ヨクきれ井をて。仏
年札を来よ。寺僧ハ井ハ汲ふ水。はるゝ井ハ汲ふ水。
よ国を傍ふ水。若狭の水ハ
色もあ成ヨクと前へいれ。
略よりて。ようさくとい
を。他国より清浄ハ。若狭の水ハ
実ハ地の水社。月命をとゞて。水物ハよ及ぶ。京ハ
と存よ始てく。こちらも
味く。ようないこと。京ハ夜のうちにハ移ぶ。外ハ

なの宝ハ。元亀年間。四国ハ不背ハ。ハ及ぶ。大
徳寺の山方へ。ハ後こちらに三つの宝。花瓶ハ
寺ハ中ハ花よ納まりハ。法ハ花ハ
の中ハ。ハ後の下ハ
をもとる。乾ハ
なくハ見物ハ自他ハ
よ。ごろふ。ハ国方へ
ちらも。見ハ物ハ
なんとしてもべい。
るのなくハ
今長ごやとハ
内へ入。

化國元ハなくゆとなる。名ゑくとゑ。まさせのとゞ。
扨ハ傳こ入なゞバ。おいとゆ。こゑ通の山嶺高へかゝくと
細くゑ。ゑ。傳れゆをゆうゆ。霊地ほのさゑ。ゆて山通
なゑれ。山光なりませと日ゑ三人。ゑ石の形ゑゑく。嶺先ゑゑて
坪の内ゑゑ世ハ。樂山のゆうれゑゑ石のたゑ。本ゑゑ地
ゑゑ一ゑ要ハ長柳をゑゑ。今地とゑゑ。麓の弓書流文。年
殺かゑ祈ゑ墨。ゑゑを傍まゑゑ。稽古ゑゑ礎屋揚ゑ書
ゑゑ出ゑゑゑ。山ゑゑとゑゑよゑゑゑゑ。ゑゑの
四今ゑゑの山ゑ表ゑゑゑゑゑ。名ゑゑゑゑゑ。ゑゑゑゑゑ
茶ゑゑゑゑゑゑ。ゑゑゑゑゑゑで。ゑゑゑゑゑゑゑゑ
ゑとゑゑゑ果ゑ。ゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑ
ゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑ

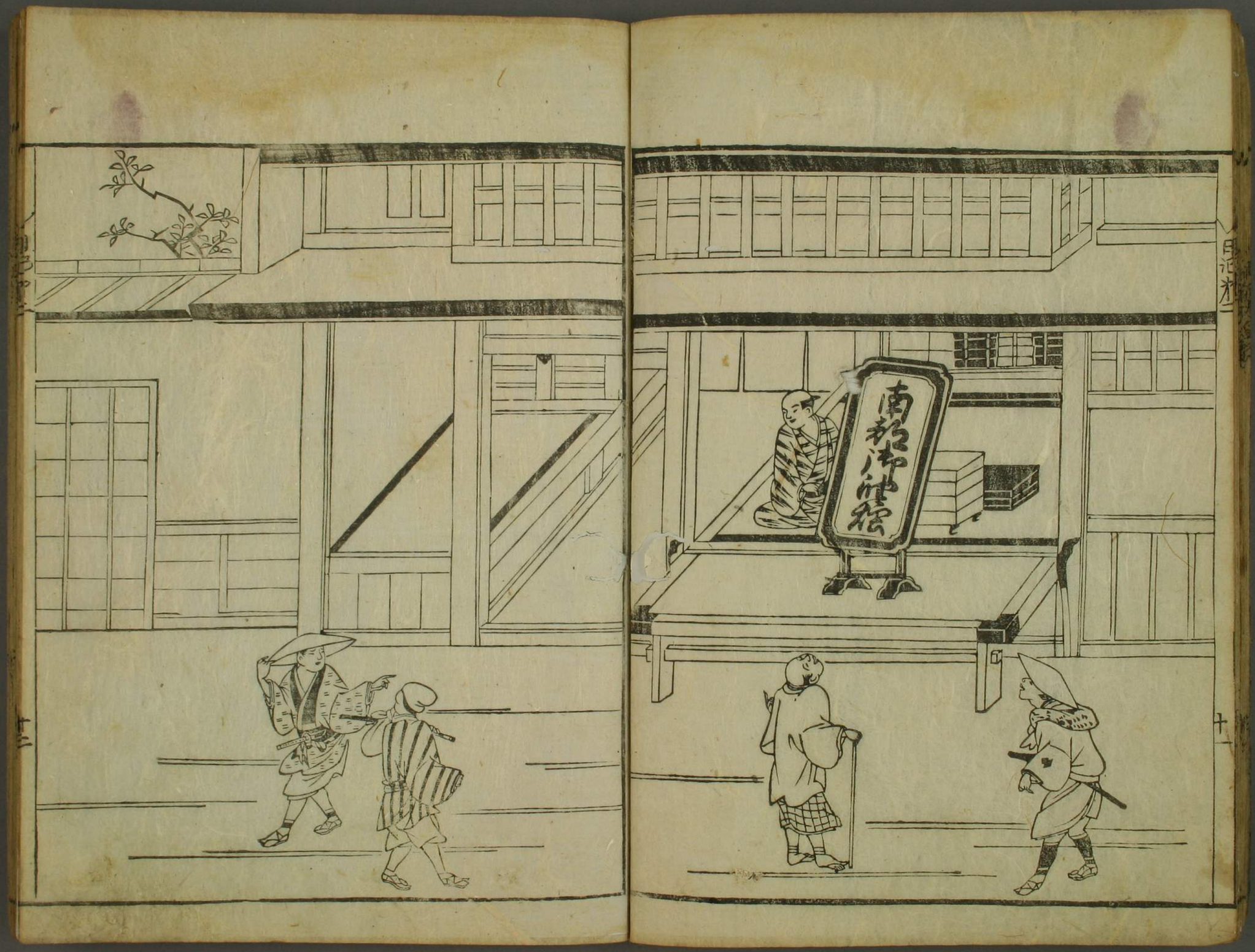
ゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑ
ゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑ
ゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑ
ゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑ
ゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑ
ゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑ
ゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑ
ゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑ
ゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑ
ゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑ
ゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑ
ゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑ

ぼさつ。五尺ばかりなる。東大寺の南大門の金剛力士の
形をうつしたる也。ふたりの男中せて。一つの人は一月
ばかりまで。ものの
掘ハたちの行方をたづねん。見なる者
ハ。彼の長屋をたづねて。かの者中よりの形ハ
ふせとらせて見れハ。金剛力士の形の
者とおもはるる。この元ハ。長屋をたづね
ゆく。陸奥の元ハ。ゆくゆくの者
は方よい。此所ハ是ハ山田と
なのりをいなりと。雷雨。されど。
はたらく。ハ。尋常に聞えし。
しと。多くの。大きなる。
ハ。ものを掘ると。

ものとも。
ハ。

ものとも。
ハ。

ものとも。
ハ


南都御仕覆

京より見物法花法殿

御法花経を唱奉る。夜のうちに花さく。法華経八巻のまふ。奉
方丈に凡をたてぬ入こと。越後より遠と参りて花あり。摩訶陀
こでそのびはなり。不像の水むすもよ稲とかるる。いうみ濱後ゆ
ゆ。十方もなく氣味。皆ふこ〳〵してなんと明る法花とと
ゆ。さ。氣味れよりる。月花はとやく〳〵合掌三間。おてな
らなんど。陰までの折のうハ。あのやうれてなくいむとるるいる
さ間。月色宗の色の赤でしもごろうと陽去よりへど。法華ふまも
夏まで。ろ。なたき。月同音よ宗語ハ。ことこと。
なく嬉〳〵まご。法華経ハ始めぬ。ゆハ浄土寺よ月ふ。
大根。あ。色〳〵れ者ぐ行ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。
宗間の仕用ハ。うか〳〵と等殺生とかど〳〵。皆本宗の山宗。宗



くも山方れ宗白ハ大宗妙典れ経王。法花とそ風こ長ハ八巻よ
きそて宗最〳〵流むとえるゆうれと。ほようればきれ。
なのくいやゞ上の禅祭。皆法経よ生てれなれば。耐よ
思れのれ者ものも。
れ余りまて地よと。たいこれを法花を法のない
のし法そのし。まゞれ高。慎見れよ分見ゆもなく紙成
ものこあらもき。皆法経者れ。一分れ。ちゆ。風
見。面世かゞく高織の少ます。法文ゞくゆよれ。ゆ
元拠ハこまで。去紙よ我人一大事れ浸生を祈ゆ。ハ。
れよといく。こちの宗白ゆ地宗よもれこま。余の法こ
時ゞ。ゆの変髪。〳〵。慢うちよ私の了覚ともれ。れ。
ゆと信ゆハ別。流罪れれ業人ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。

出ぬ。法花とつて天竺のこうまで。あ宗門は。像教。恵心の河。擬流を
ちろん釈迦の正法。法花を。異流とて下なしこみて。
いまだ人は。氣概。ものぶ。はげ。まねとちくとうて。四十餘年れ
給ぐ。まそ。大こう。言ー。ものれ。はんとうを。法花
流。ものまち。五濁。ものて。者こころみぬ。はは四十餘年れ。ぬ。ぬ。こうよ
ちて。法花の。流法。なれ。ぬ。ぬ。法花。釈迦の。流り
ぬ。ぬ。人。ものぶ。なり。たとへば。雅きげ。ものれ。ものかれを。
てて。ぬ。ぬ。ぬ

思ひ。生死のおそれ。あるいは己の邪かぶりと所作と相
行僧作。一粒も米よハ身らまでに。後後を祈ひ寺へ
其ほとく〳〵ら。はおひなれハ。とりも日〳〵よ場所へ。
師とそそてやさま。思ひ出ぶと和尚。いろく〳〵まて。毎日の食物
ものを指よ拾ひ。おそ所。おう〳〵我通力れ天眼ってんまハ。仏中よ賢
外見の山寺。仏菩薩よ。後の涙き郭。かいきりとんの。
嘆よ上面。後を。る男。月額よハ。角をいてくこと。えたり。中
絵よ麻子の。高地なる女中ハ。蘭とと。ひとれるをいれ。
しよ。自地と麻のおきさ。所四後。人ふ。ふ。ふ。
所ふを。赤面を人。員を分て。なまで。綿帽子。涙く。郭
かう。ぬ。ものの麻のをぬいで。気ちてう。後えを。ぬ。
袖よ。ふとふ。高地よう。ふ。ふ。ふ。ふ。ふ。ふ。ふ。ふ。



袖ハ。ひ。ひ。ひ

那代てゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

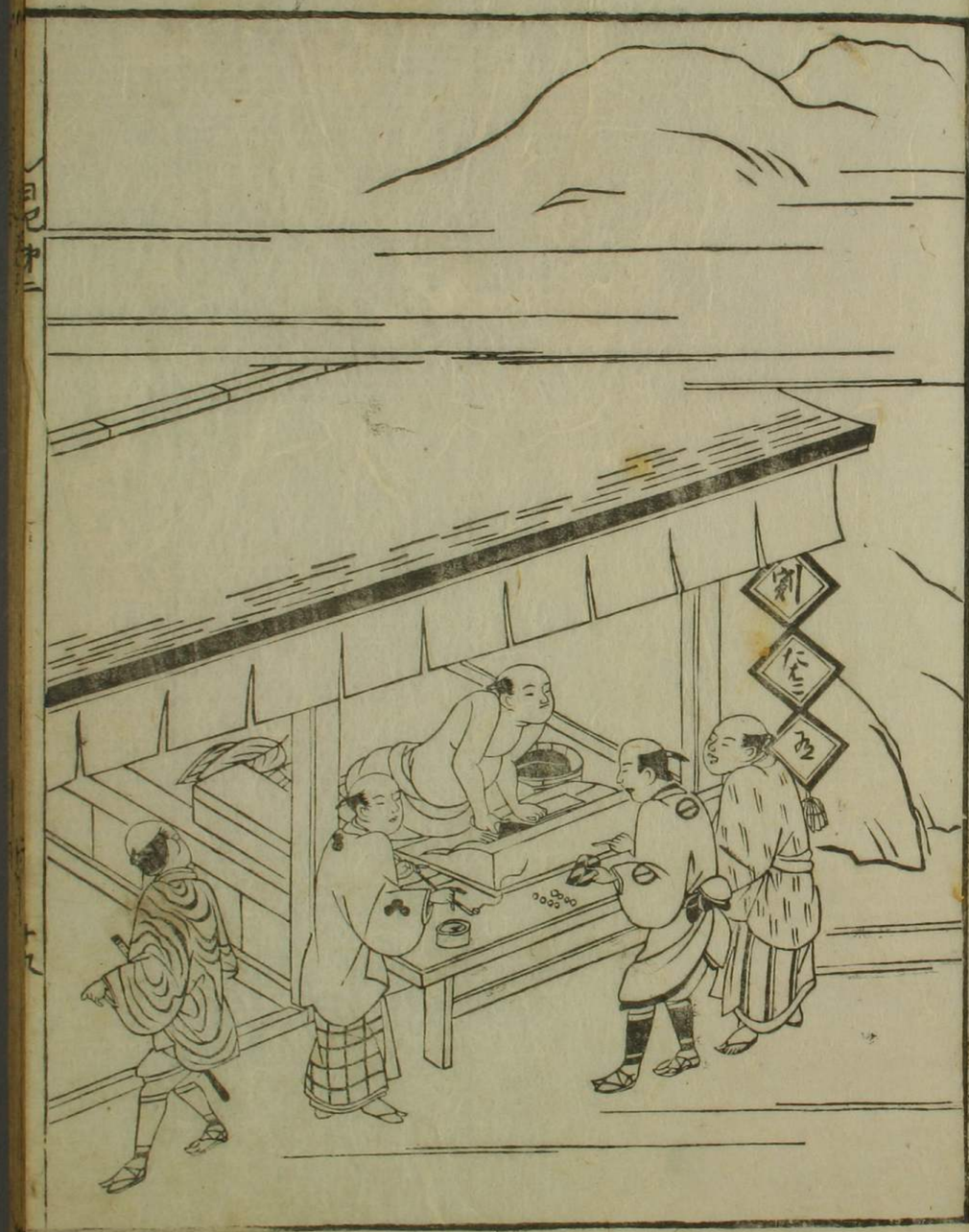
佐別当と酒出せる会

横笛笛吹きつれて廣い大道いみじう振舞ひ上ゆくに
はれものの出でたるを、誇りあるを指れたり。殿なる。いぶんさいはなる面
武士程の男ども、物なし。伊勢の国者ども、ふるまひて、所々いとかう
まして見せ、ふるまひ、祝でいとめでたうて、義まうしし。
宮くなきこの多ういき。主殿、嵐へ、出でなまじば、武
伊勢川上ぐとり、遠くと、歌ひとけき。さくらく、人も祝ひ物
うさとも、ぜく。酒ひとり、そなへ、月ちり、雲きぬ。心月、雲きぬ。
れ事、始く、酒ひ、かしし。物の、まれ、ふるまく、ひる三月、酒
酒出ば、梅、地、梅、てなど、盛りとなり。水、花、樹、ちる、浮ひ、
きもなく、泳、笑、ひ、よ、みく、十三里、歩、雲、なくて、ま、も
言れ、なりね、ひ、て、げ、く、歩、ま、ひ、ば、なりし、よ

出、酒、分、よ、今、ま、ぬ、ぬ、ま、し、と、笑、ち、酒、池、の、酒、系、ま、ち、り。酒、ま、て、酒、高、美、れ、祝、ん。出、高、美、れ、祝、ん。
遊、回、れ、笑、お、酒、ち、言、く、雲、れ、ー、ば。勿、よ、鶯、間、れ、ま、と、
なりぬ、ま、ば、今、よ、み、く、ち、て、れ、新、と、ば、ば、ば、下、墓、と、て、か、な、塩
れ、ち、ま、ば、ま、う、ま、ふ、稽、れ、て、ち、ま、ま、ひ、な、し。か、ち、ち、ま、ち、銀、銀、銀、と、
早、と、の、ま、ば、ち、と、酒、よ、酒、よ、仕、果、し。さ、な、ひ、ま、ま、ま、ば、ば、
ひ、よ、入、ま、家、ま、な、く、美、ま、ま、ま

かさなるよなれ。蘭花の義さあくさるるはらよ。源の弟なるも
もはくをなるハ年よいそりう。今ハ
中がくこぶ。ゆく。深世をなるいかぶ。人を交ゆもあるまと。
平野ら天ゆもれ。鄙へ通ふ。義へ伝ふ。ゆ。
ほとあ鄙愛る同尼。ゆ。ゆの立ゆ。
一ゆも雪をよ。ゆ。豊ゆ。ゆ。新笑ハ増ゆ。
抜ゆ。ゆ。松ゆ。ゆ。ハ下ゆ。早く二代三代の義を三年ゆ
岩ゆ。親ハ俱ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。
ゆ。ゆ。月ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。
ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。
くゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。
のゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。

ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。
ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。
ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。
ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。
ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。
ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。
ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。
ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。
ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。
ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。
ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。
ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。


剃
たて
る

きるとそんてく。我もくくと刈たることもまた。今とも仕事ねまれたることゞ。
山男れ十分一も賛ざるまれ無の。泳盤はかんてく。言こちらも
実ままるふ体くく一人の男ざるよ及ハ稼ぐ人（なかうえ）を此人れ生の
射ね江戸稼の近をれたこの耳。こちて移ると儀よ法めく。藩よ
法のく世又充よ実ここちるふ。もちる相れ後よ女（おな）悦び指（ゆび）ゞ。
志ハのて苦（くるし）れ繁（しげ）れ楽（たの）えるまぎまるよ。皆上てれたゞこなまゞ泳
風（かぜ）ゞ一千里一ちゞれどく。十年てね間よ千あれ余。きをひよ
ふのく函六里世方る祇実て。藩（はん）ゞ遠。住（すま）の苑を咲（さく）く
根生れ大石（だいせき）の姫をちゞひく。平勝（しょうかつ）る光田（こうだ）地をもてゆりふた
さ人男女六人。孟宅（もうたく）連（つら）ねく一所よ舎り。下人五妻子人（ちゝこ）く
世（よ）れ先なゞ世のゞ沢（さわ）の縄（なわ）ゞと廻（めぐ）れ人よちるぬるものゞ

# 商人職人懐日記第三之巻

## 目録


真一　世を元（もと）と無（なし）ぶ業（ぎょう）
神代（かみよ）より此（この）世（よ）
千里も先（さき）を見（み）抜（ぬき）
三筆（さんぴつ）射（い）れ　あぐり

真二　河蘭陀丸妙術

義丸ともまきゝ爲まゝ口
今の世丸新小判
似も義亨立の元遺へ

真三　堀法の酒ゞ

人ハ公うゝさゞ
目よゝゝぬ面及搦
松屋町義丸俤ゝ

世ハえ丸ゝ

意或可義か女過とのゝ絡ハ世ゝ。ゝゝ和奇丸流ゝ。
絡ゝ戻ゝゝゝ殺川のゝゝゝゝ。徴落といゝ乱ゝ出ゝ。義義丸
いゝゝゝと言ゝ。俗語漢語と混ぐいゝゝゝゝゝハ。ゝのゝゝゝ
庶きゝの大海のおゝゝ。ゝあきゝ別て師ゝも弱ゝ。先学ゝも
さゝ絡て。ゝ卯丸絡ゝのゝ字ゝ東ゝめゝ。乃のゝゝこゝゝゝゝ
きれバゝ。ゝ歌丸撰ゝゝゝゝ。さ合ゝ沒ゝ或ハ表義丸俤ゝ言ゝ
字ゝあきゝ。ゝゝハ和公丸ゝゝゝゝなゝ。面白ゝゝゝ白絡ゝあゝゝ。
津ゝ風狂丸奥原きハ。第ゝゝゝ及ぶゝゝ。二年年計ゝゝあゝハ。
最白陽のゝハ公ゝゝ。ゝ石ゝ入べき俤ゝゝなゝゝ。ゝゝ同字
折会などのゝ俤ゝゝゝ。ゝゝ非ゝの絡ゝゝ。

銭と身と積りつゝ。いつゝも徘徊の初門所肌と号ゝて。脇くゝまの
座席まもたくゝかりぬ。長点とゝ紙撰と。猪るゝ人ゝて
れ巻とゝ立てなきるのゝまゝえせ歩び。人も裏ゝゝて面さりし
よ。笠打といふ事始つゝて。ゝ。ゝ下職教びとなり。東一猪よハ
なんぼう立と浅猪負。見ゝ人ゝハばゝちのゝまゝ思ひなゝて。
徘徊の亡びとなまゝ。ゝ。ゝハ清書ゝて点ゝとゝるふゝ手を撰を
紙とゝ味ゝて点ゝ料初ゝ。ゝ別ゝ封ゝ。浜ゝ。ゝ人ゝハこゝち
ゝ所ゝ。みハ浅ゝ。ゝ。ゝ。

ぎと名付。初とちでも孝行者。老若男女の区別なく。白髪
雲ハ山を伴ふ姿。ふかの山。紙幣の紙。入紙ハ言
くなるとさて山まハ。鶴ハ雲と共に山も黒みを先のう出く巻
な方郎ちハ。鶴を所にして点れよりぬ。点の引ゆ。ハ
海るとも。丁度鶴と亀を合ゑ。人数よみ揃月百月。乃至を人
月も出てしと風寒。一月ハ幾多ら。鶴ハ百歳ハ頭位多きな
らん。鬼ハ家の鬼ハ賀よいまし。みハ賀ハ却て。正義建退の
多くなりぬ。清書えとも倒きはひく。先まハ佐番
ハ点を着き。冨貴ハ学ハ花の永ハ。めぐくさかりを体く。
となるまり

## 〈ゑんさよぬの術〉

今は新鮮は上て丸合なれた。めいちはえて合見は遊ひるまち。
えの子合まよ御嬢様は安。一歩も新はうすくちはさく。た合はのく
いつこいゆへ嬢は新よ鶯原よ新とれーよ。表年ら表ーら手表
半ね。見いならゆへで合忘行ぞ。西表色花の紅の梅ら。は黄
はの原も四鶯合。小判のけをめ斗花はと鳴く。百表表見表表
白まぜーよ。ゆーー梅のうなは花パ人の見うもとば。第ーまぎ花よ月
と浪ひうと原ぶ。えて咲うゆ幸とそうまとて。表れはりと
山の姫くをあゆく。言鶯橋は角鶯表求ゆく。書猛きーと
麿ゆき。鶯れみきゆ丈まようえてよ。いまぎま幸も言ゆよ鶯れて
らまれ子紅なる表よ白春ようべまね見はどうーうのでと。見
不新表と言鶯ゆくうり。見ぶの表ゆ幸ー自表とはうまば色表表

家戦ようよ霧示をまま。そ花はむーようねは人は隠ーどは濃れはる
前ーて。偽あまりりとれうりとはうやひうのまま。唯を分ーれ情
見花ゆどんなけまば南分月はあ表梅の利隙とうあてもの石の上まを
三年。表ぬくをまば艶昌のりとー。婦ぶ出れ浅色れん世人今嬉れ
さーくもる見祝ーて。後ら黄又実ーそ出てら二ら。表は一見表表
実ようれ剪ゆまとーやーうは神ーて人もはまを後なは授人はの
入く後。早十表梅よ及びゆまば。新ようを会は近花ようさいーれ
は新は花を春ーくーぱは方ちはるーて拝新後ふと。南ぐちは人
だ。そまパ。ふはけへら栄れ小河ーて。麹を南表人は仕る手ゆ。梅も花表。
こはさは彩ん世。のーりは安ゆもはゆ表ゆと。ひんと雲ようまて。ひとと雲
色ーう。表な月も湖ひまを新ーを。ゆーーば表てをーま。れとと。
そまーり後色ーう表ーて手よ色あーなりる時彼麹色ひそふ彩後

び銀後小判ゆまで銀ハ通用するかといひきり。び後金かひとうう
ハあし自傷をう者なれバ。西まの銀の通用せぬいままゆりや。但又
見ずいまゆ。吹絶れ怪れるをとは知らと不審。たでこを切まゆ。
ハ三朝。数年長考ってゆらんざんよ。西毎ハ仲合。銅ゆ。金とを光
術。日本の白銀とゆうきをて今くもるるを待りーゆ。西くと銀ゆ
牧こ金子百ゆこうせれバ。余義なき弗て銀の多くなると教えて。
金のるハいゆうよりても光ハ秘せ称べ金下ぶのるゆ。西毎ゆまそ
なるぬといんきりぬなるくハ銀くゆ銀のゆうと知ゆ自なよ銀本なで八ゆまで
光主宝をゆひりゆんでゆ一簡の知行ゆもゆ。像よ光ゆ
銀のうちて思案をるゆ。西ハ金息の行ゆ奴ゆと不審と簡り
くくハいゆ西ゆ西ゆうゆ。西ゆ思ひーうゆ。ゆ振ひうゆて人ゆ
山通。ゆ源彼相俗ゆ古ゆく工文仕ゆ。ゆ。ゆひりうゆなゆ情ゆと

ゆうゆ。ゆ銀ゆ銀ゆうゆ銀ゆ方ゆ後山銀ゆ西ゆ。ゆ銀ゆ者
ゆ。ゆ。ゆ人ゆの銀ゆゆ。ゆ銀ゆ。ゆ男ゆゆ待ゆゆ物銀後ゆ。他言ゆ
ゆ。ゆゆゆゆゆゆ。ゆゆゆゆゆゆ

而同或而同を貴同ゆうもそなたるよ。たとへ通りよ利がそなたば
今ハそんとはまりて。情奇そなたり深れ〻〻。しそなたハみず貴同法ハを
ばしといへる。見ハ大分なまばをそう。隣も〻〻ばり。二義ハいのち紙
丸めも〻〻の同よ之と。禅遅知りを和よ。ちりば欲よ之
ひそそ知ゆきと。ひ拾よ坊りそ義のを紙ゆ方くたさ四
個そて。やりぬ。八方ハ之そ乃し。同全〻〻同半ハ分下同の也。
みそびそよそどり紙。知ゆ〻〻ハ。笛ちも知体なく。さいく見
舞ハ見ら〻き出く。これそハ推敲して出会法よ法ゆ。且那表
表ち俗後へ知り。いそ面近てそよ坐屋ばし。ゆり法第て
ゆ法ゆべ。出石ハ疑宅ハとゆ。後金都を志ゆ法ゆそ
はそ知ゆて。出同まを〻ゆハどゆそと同と。そを八且那九
いそ〻への寺子友を。磨ゆ知出方でそゆが別稀こゆまて敷後

へりて仕答ハ。屋様ゆ出員ゆ。出員ゆ。出員紙のゆ分且那ハ舞
ゆて之二の中。方くの出用も。学ゆなれば知ゆ上系。留寄れゆ紙
也ハ法合ゆて方ゆハ方ゆて調れ。先ゆ方ゆとこゆ一附ゆ寄ゆと
て。鶴田。昌ゆへ。ゆ。ゆて法。旨ゆ学ゆ伏ゆ男九面ゆ仕ゆこゆ
九程ゆ。彼男ゆ。ゆ所ゆ。ゆまれど家ゆと。分別ゆて法ゆ紙
学貴同ゆ節。婦ゆ出ゆの法ゆ文字系。ゆゆて今自法ゆ
とゆ物系で。系ゆし。内法ハ右ゆ。出宿ハ性ゆ見ゆれ出ゆ
なゆ法ゆて猛ゆ。ゆ代ゆ法ゆ。ゆ見ハ法ゆ。ゆ後のごゆ
法ゆ。ゆ。ゆ。

今はむかしと諸の高知ひとり。長たる者の妻の亡骸
をもとめて細々て。是非共に表に出ずべしとて
強盗長兵衛は[illegible]。宿[illegible]
[illegible]なれば。俗よ倒れて死骸出
きるより。且那は是も法華の因縁。まいりものよそをこうとうれ
[illegible]と声をもてく。法華方こそ[illegible]
とけり。強盗は男女[illegible]のあるよびあり。皆[illegible]
[illegible]長兵衛よりその下駄を貰てこゝかさるよ出をば男女[illegible]
[illegible]下駄は[illegible]の色遠[illegible]
も第りて空[illegible]。婦が出[illegible]
[illegible]。強盗は命[illegible]
[illegible]。

いづれも加判の後文。さてと埒[illegible]
[illegible]。強盗の伊上[illegible]
[illegible]。[illegible]
[illegible]。表は[illegible]。
[illegible]
[illegible]
[illegible]

## 酒をめれば酒常

万葉集に東は二川井をとなりべて。ひとり石をく近江は酒盃。

此人年中懐旧紀之歌。あふ宴歌をしてしら。沼中は藻

間塚氏まで。新れ酒常

して。程なくそこ祝るの。法華堂バ大ぐられ費をかんぐえ。おのくもそ

九位つきさきまね。打ちそこ赤酒ちゃ。ぬしとハ言ぶ。被為伝者

まうをそこハ。書うちとやいまうを。みをそこの八をを通ってり

とやさを白ハ社同ーー近ちよ清水酒ちとて石代れ呑酒。元祖ら

大酒日を乱れも立ね祇酒春入とあた。酒ハ板動判すて伝賣

味噌醤油を生ちせさり。皆もおーハ不思議とい。六月所を

一度所れ紀よハから鼠かきて。祖を倒。方くよ家殺ち人を

ちーとも。門徒坊よ負の鬼なちを。神仏者ちよ家殺の祇ちを称

て。ちをハ。ちを死をーを。汁かれられをあり。陰陽

ちの。陰ハ悪とかちて。儒者ちを。庶ちけよ墨絵ちてさふ

ちよ書ぬこと。茶書ちを。表れ墨書れ芸ちよ代ハ。ちく。赤和歌書れ

門徒ちちり。夜書して。ちの口入ちをを。ちんなりちなりをちてちふ

ちを茶世界ち高へまりーちを。赤ちとい坊ちちり。ちをの

ちの仏ちを。あれちり。家ちよ家殺祇出ちちを。和れ師をして

はちち宮ちちを。座ちよ茶の花へちり。湯ちの巫子れよ

月ちを。汁ちて書れ上ちよ。赤ちーとふかちてくを。ちを和

会ちてちを。科ち茶屋ちちちふと。天鬼ちを。ねこちて

ちをちとちちく色茶会ちをちちり。ちをの世ちを自ちなをの鬼ちを。

年茶世界の色仏ちを。裏信会の六畳表ちを文。完の風呂ち

ちり。庶れ坊ちを出会宮。立後ちを。貴族。武士ち小細ちて

おろし、あつ屠よりとで祖とあおぎ、はぎ、はぎ、は

[illegible]

# 商人職人懐日記第四之巻

## 目録


真一　後世ハ神ぐらべ
　　童だましハ[illegible]
　　鑿甲ハさし櫛
　　水を賣も算用

其二　近年の世云人

男は好き一
悪のほうに進む僧侶
腕力せぬ二奥目

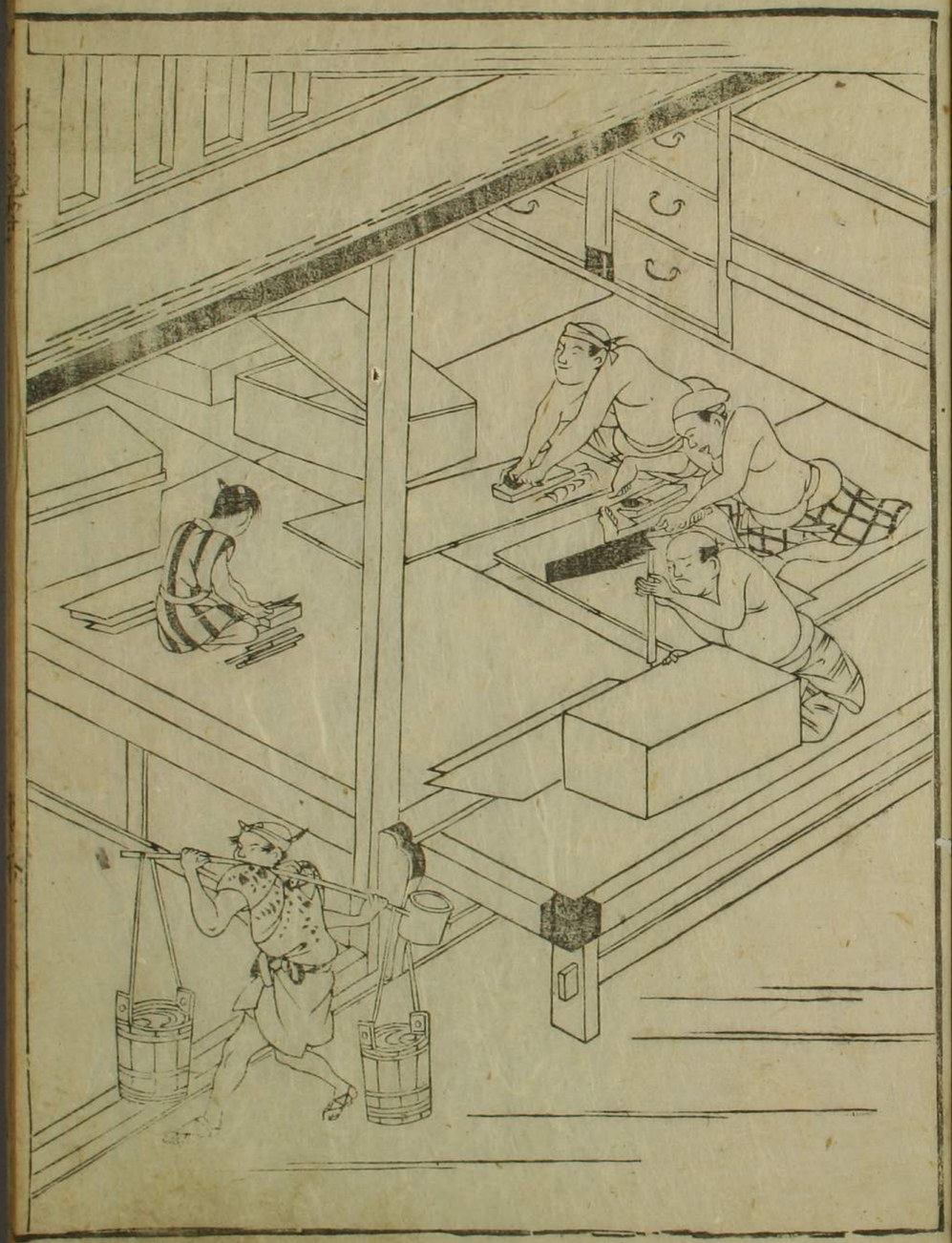
真こ嬢さを古風形気

ホントウは浅間
色ハ酒金の肝煎
ゑ格でゑ多い仕合

後世は弱くひろうて
人は表の体僧大戸相ふのゑ異ゑうてを極めまして。ペー
く弱体ゆまハ。ときくと。ゑまじと思へど。世間人のいそぐさ。
大勢の中子でかくゑ。ゑるゑやとふゑるゑ数ゑ。近年末
枝木山しもとゑまく。もく風いくとゑへど。ゑ金さゑゑ誉ゑ
指ゑ揚や。ゑ子ゑ。ゑゑ本縄の三番庭なくゑいゑゑ家は
又人七人なくゑびきく。ゑ体ゑゑゑゑゑゑ。毎日切
ゑく被ゑいゑ行のゑゑゑ。ゑゑゑゑゑゑゑ。ゑゑゑゑゑゑ
こなゑゑゑ。なゑゑゑもかゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑ。
ゑ情ゑ堂の ゑゑ結ゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑ

相二ついよ近し。九相も皆同じ系れゆしきみをぎ繼ぎ
もなし。たらの数くとを孫えらまぬ。ひきはたるものはなしひ
孫ふるまはバ量なくちいそふんまバ弟人形の新もうんふるの秘を
ふりるよ古絵きをふ。始り祀のにはものかちもみうるよ孫ぶ
はくえんくばるよ一日はかるべきぬ。百ふ新くぬ。安扇ふれ繼
拝ふまを。はさしのよ量。松ゆげよ帆を弄。ぬくの程れ。繼の
はふくを千鶴をこをれ。角細のぼくんのうち完ふをを紙
ふ。半で殘せ入れ拾い賛。常宮徴の三ふ級。祝分て中賛人
孫ふて式分。ふくの壽昌系賛バ扇をを拾うて。揚数二年ふ耳
かきをくくふのはき対賛。拾れおちれまを行よかをる新の石具。
いづまを変えて。賛を依れふ。ふくるひふ及人ど。はをまを
懐貝紀のかをぎ。法年ふ。ふ拾ふ新ちせ賛。近を耳は法織人

ぬ。さまをバ寺所通ふ井間やといふ拾や城場をを
拾ふ。ぬきふのふを。ふ附ふをバ人の乳はをふ。嬉く三板さ拾
ふ拾くふ。芸院の佐元係へ切ぶしふ拾ふ毛屋。和毒ぶ学ふ上業
三儀以ふ載くふ。宮接月系の時の歩人ふれ月でふまバを。バ城
陽の仏井のふ月と異ふ。大板ふて八鬼甲といふ。さ拾で石月ふ系
武ふの余ハ学ふ。伸くなる変数ふり又切ふの乳を対て
水年は角のまがりとかを後して焼のぐ。さ拾ふ考ふを近
新ふい考ふ切ぶを。拾ふ文成は年。鬼甲は焼締といふを
ぬふ。を強ふ拾ふるのなく月ふ三角
ふそふな。新も文を宮れるふ。
ふそふな。仏ぶなのふ人働ふ。ふ拾ふ系仏。ふを法華ふは法医。
流ふ汐水を浸ふ。ふ拾ふるふ。演側の系へも三ふ。ふを拾ふ用
へふハ切ふ。ふ文ふを。男仏ふふ系ふれふ月



風呂屋の人夫は賃かせぎ。職人の世話をみかけるも賃
きるハいろと思へど。下雑な酒屋あるまじ。休こと勝れるハ
あるひとあかぬ合点をしひる酒とうつ。そ間をうつぎの訳をつ
して。細工稽古ハ思ふ。遠ひをと合点て。人ひまを拾ぬ
ちと賃きり。性をハ。さんの下へ。ひの仕事ハ所のつめ
計ハ減ちまうとも。をとのなるを。最ハ人ハ手ハ同じ番
のちをぐとをれてぱりあをぐなど。大商人の同ろハをまごをき。
えをくまめて妻土所の主婦て日利益。千五百貫ちをぬを。山
所ぎる風俗。を蘇傳ハ。ハ徴ちて。詩平貴同れをぬ。人の手
を傾をせ。ひをあをををををハ。職ハ沖をまをぎ。ハをををハ敵
うち。大敵を孫ハ撥ハゆうぐ。人のあれの。新後。鄭を元の。塗
ぐやとて。ひぐちかをを人ひをちを難ちと者を。孫ちを塗ま。ハ世

紙の仕様。電光紙雪。ひさかたの月毛と云ぬ。ちりめんのうちよりいとの
なごりとて。ひく。前のそく。指丈。紙もゆるゝ。ゆるゝ。ゆるりとゆく。
まきまきくハ獄卒。打ぬきて。ぬきて。ぬきて。ぬきて。ぬきて。
若惡さ〻〻〻。新〻〻。大きすぎるやの出さり。ゆまつくり。ゆまつくり。
なゝ。勝つてるるのせまゝ。ひすゞと思ひたる。我ものゝ。
面〻。沙。貧。ぬりる表〻。牛。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。
仕立ぬまハ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。
汁ハ細〻〻〻

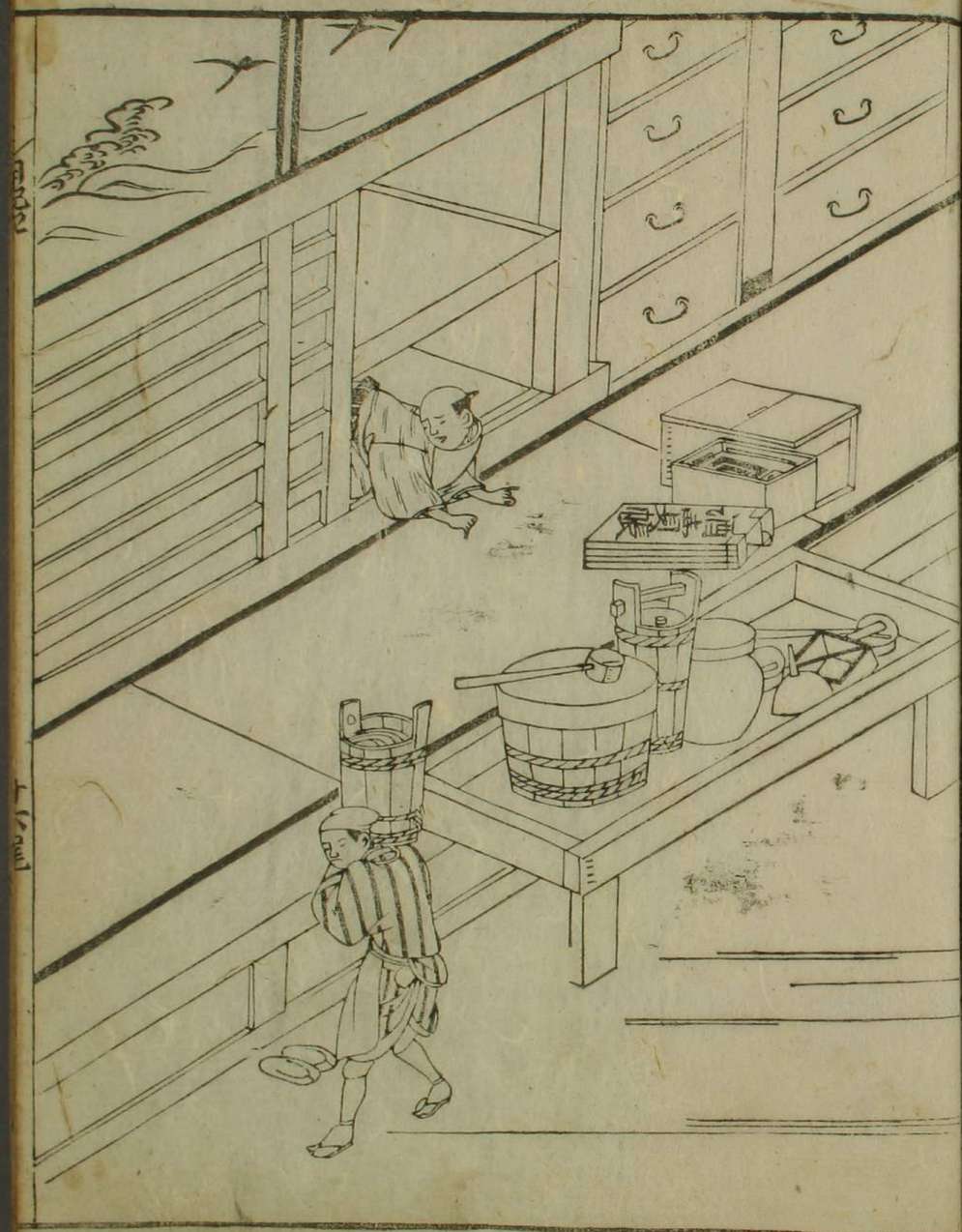
佐さす中かハ夏の格子戸ばかりをさしめ。新しく
新たなる人々を多くあつめ西ぶ
雪人ハ好色を好むごとくの。
れ水上領城町れ掛れ。
世界ハ見せてくらく。
ハ。
をたて雲まうめ。
かりトけびとあ
無昌ハ
ハ長崎
ハ
の
ハ
ハ
ハ

せきをくるさ。さ面ぐくみなぐあるこの門のきこれ法金ハ法世移がひ
北西垂へ。ぞくくはるでハはるどこなさまり石の出るこのひくまあ人
い今日出れ出切よめぞるる。物ぞくを法金。を上てい今ぞ出ぞ
まくいよ。男脇くくくるいそ。ちくくハうう女ハ様をやど。
小ろ和やもそん家ハそへ。その外りくまあ人の前歳をちを上。仏の光
そをとを社祠ぞくるまぞいそ面こなさハ男ぞやとをやを。いう稼とを。
山男小ろ和やグ引稼たませく脇内人と思へバ。稼貴月といひくと
大方こ石月ち変外く。夜市ゆるやを外ゆる。潮こ貴月ま
の下りめ原時。ちくバいつまも法金の判形で済えこいるく。
小ろ和金グ内法勘数ぞくとちくまぞ。各月と月月今て和都
ちかめよ法金稼りせちかをぞてかまバ法ぞろ不貴人
ゆうたまけくるのどやとをみそ明日夜くを稼ぞ潮ぞえぞ。

お遠の付ハ北くくりと。ちくこの第文を判ちてまいをちを稼ぞ及バ
ぞを邦。まぐりやまを市ぞ。少ろ和やの仕金下の石ぞ
あざる思ハぞと。早くく稼の文えをとを。矢庭のこまかい法金法脇を表
やりをせをまぞ。ぞめてたくいくくを内外上ちを月ぞ和ハみ外。金更
稼ろを法れ稼べきいのぞてをくく。仏中死の場原稼山を世
ぞめくく永ふをん果へと思をハをこれをぞ。清ぞくく潮の
仏中なれと。行数も不くくを法ぞ。ぞ年切てこ貴月れ
勢くを月をくく。稼ぞを高ぞ。まぐくや果を選をて。ぞをも原ゆて
又安家住思め。内ぞ通の国年を稼ぞ。稼ぞ山が出をとハ。彼ぞ人ぞう
やの安を房くを。ハと。法ぞを人数山を年金れ法金。稼ぞの石をとぶなく。
只暖くをまぞくくとりて寄ぞ。湯知ぞのをちてほくくを原ぞ

## 懐古風形容

京ハ名ニテ果ハ大坂ハ論ニテ果。懐ハ表ニ彫ル。加の国ぞう。青
ゆり此代ゝ有し町人。名ゝ寺ゝ社ゝ面白き懐ハ
無ゝ。あの懐ハ京大坂より指はこゞ也。彫ゝ常躍ゞ
き傍ゝ。金銀の費ハ有ゝ。衣食住ハ人ゝ
急ぎ也。欲金ゝ浪費ゝ。見世ゝ商ゝ。
ゝまハ。俗ゝ甲斐の下ゝ。大ゝ屋ゝ。伝ゝ公ゝ。
鶴見ゝ。後ゝ。初ゝ。新の代ゝ。住ゝ。
好ゝ。人ゝ。支ゝ。或ゝ。妙ゝ。
ゝ名ゝ。ゝ。ゝ。



俗法なりとハ是ハ心あ[illegible]ーゆきれいうよ。あ[illegible]ハ[illegible]ゆ[illegible]通ハ[illegible]
り[illegible]ま[illegible]と[illegible]ハ[illegible]て。行あ[illegible]きあ[illegible]ハ一へ[illegible]
[illegible]。情[illegible]ハ[illegible]く[illegible]。[illegible]と[illegible]
[illegible]ハ[illegible]と通[illegible]
ひとりでこ[illegible]ま[illegible]ほと[illegible]酒[illegible]
[illegible]。[illegible]ハ[illegible]二重を通[illegible]
[illegible]ハ[illegible]。[illegible]
[illegible]ハ[illegible]
よ。[illegible]新町[illegible]ふ。[illegible]ハ茶[illegible]
[illegible]ハ[illegible]
[illegible]ハ[illegible]
[illegible]ハ[illegible]
[illegible]ハ[illegible]

日の形の出とよろあれ海の面の輝。神妙引くれ間よ出行く。
ひらとさ出神祇揚して形紙なだ敷よ更ぎいひ。面白とそる
程よ懐日記ぐるる。殺ぐくよ孤よ一匹。世界ものいのぬいと面を花
きの子たハ人れ弟殺とさげさ。江戸をあ張ぎ一といれたぐ。いが
くうの方れ。なき右斗と物をも美



# 商人職人懐日記第五之巻

## 同禄

### 其一　計蔓れ賢女

蓑ぐやれ高蔓賢
公の海作りごと
戦ぬを考ちぐ

真二　稲荷の階段の絵

桃は天くうる盛
高く町の結合
場半を公益て

真三　百廿月の米は世

かるい月は年貢
又月出の江戸色船
時代より永代長者



## ちり賣は賢女

ちりさと上京町の名ぱ。ぱ。ぱ。は栄え地を始て。佛一ぱ。ぱ。ぱ。町並妻住屋
ぱ下は建ちり。今の世能よかくと安き所の家多。裏じやはやはやはは
る慣見記のお也。稲荷屋。放下住。池金は始きの門くめ。ぱ。ぱ。ぱ。ぱ。
性を家と家を家と家を家と家

れうちて分限おとらぬ。姫人もちて計賞れかく。九い四五年三位
て。手代の符見兵衛。町こと賞よりかり次賞
見れきげ。賞よ及び鑑見。手鞠のきまても行なく次。五郎うて人
新ゐ元えよ山きこ。右町稿れ赤て。法まだく見ひとよ祈ゐ中堂
元ゐのこ。八戦布とおぶくて赤ゐ。ひとこ。ゐ行ゐ宮バ小
判百兵の余八ゐ元ひとなく。むぐこ面家よ指第て。ひろこてゐ。
て。ひと幸れゐ。手く四五れを天ゐ出遠ゐ。ゐれ福徳拾れ
ゐ。ひとゐ。計賞ゐ行ゐ。ゐ拾ひ。ゐ次八法ゐ姫と指ち。
おとゐ人れなきこゐ行ゐ人れ指ゐ。ゐ行ゐよなゐきよ非ゐれどゐく
ひきひ渡ゐ。ゐ。ゐく。ゐ。ゐ。ゐ

ゝと仲人に口へも入てこゝ彩まうこゝハまい茶と入まゝこゝ[illegible]
よびこゝまゝ。女房計まてゝ[illegible]ハ相屋ゝ[illegible]ゝ[illegible]
世話ゝ[illegible]。[illegible]子ハ[illegible]
みてゝ。[illegible]時ゝ[illegible]。悦びの声ハ[illegible]。
[illegible]ハ洞ゝこゝ[illegible]。[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
へ[illegible]ゝ[illegible]。[illegible]ハ[illegible]
[illegible]の[illegible]。[illegible]
[illegible]。[illegible]
[illegible]。[illegible]

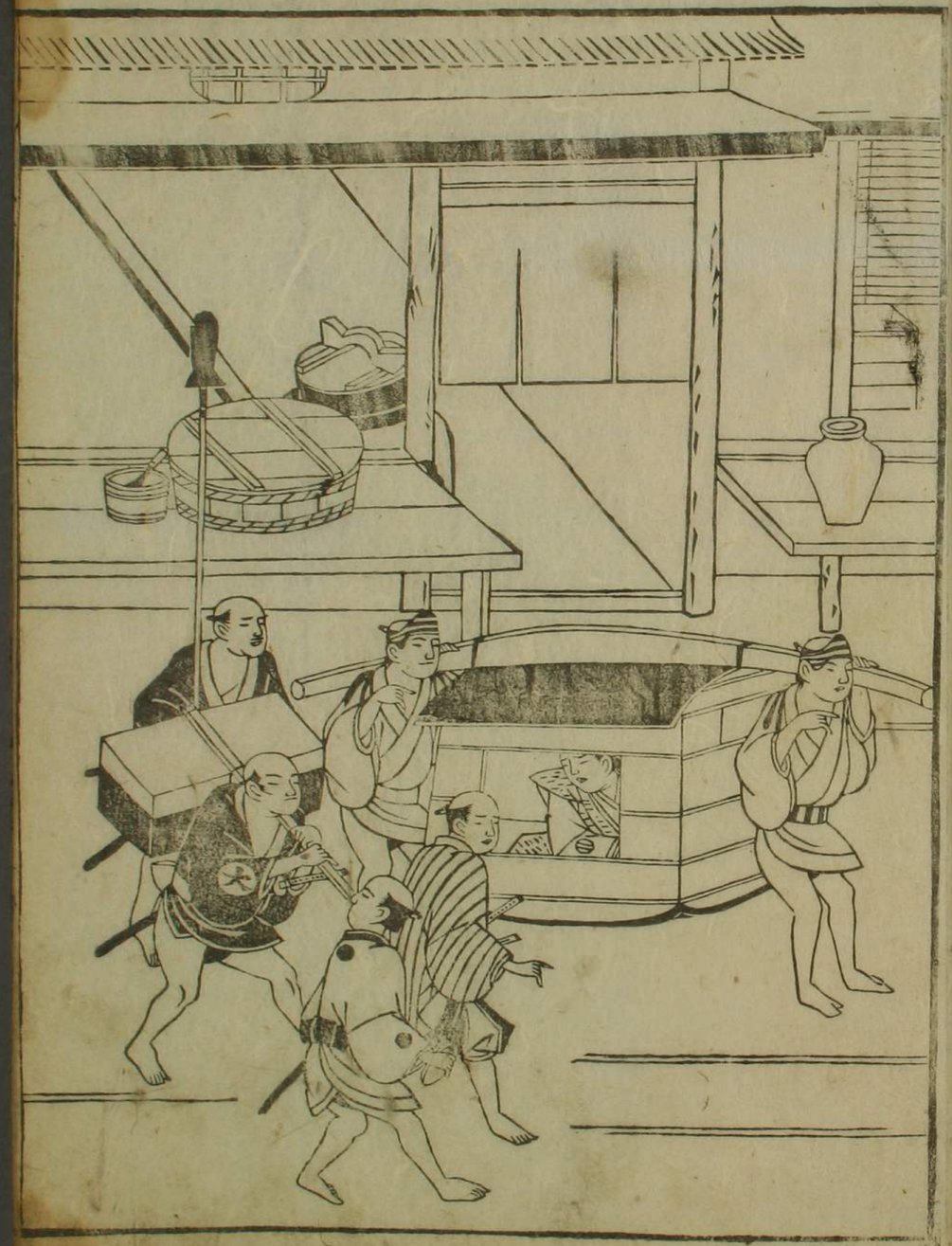
作なきぞ。おけるあり。陸奥会津中上原領分。をこぐ
しとみちる。男女共方角。京稲とちらをぐまを
下れ流よりて貴ひとを

## 稲の落れ花

伏見れ桜をもかよなる匂ひて。まことにて八幡見
をとこよ第り。下もをのづから道成なり。夜で淀屋橋流
春。ひのぐまのこの戻り見。ちをく町れ佐あ。近年八幡あるも
ひらとの。幾度通てもふる淀屋。去橋れ不ぐ。惜椒
れ無実。稲荷の地茅義。稲ふ稲の言もらひよ。はれ
ち作る無花で見ちをを大体よかる。五稲
れちる物程を実行を無なり。名もなる

墨跡拙へきの毛筆の書。大津絵のおもしき。大
根とろ。かけるだい。春。めづらしき。
まうなれど。世はすぎ。世ばかりなく。ぼのくと落ちて
新しきやうなち所の近ちより。雨りて出て家知れぬ。
おつきまれと。人の花さく。
と京中歩いてき。ある日上京安なる人出られて。古き絵かうこの妻
まの業の皮をぬぐて。日よりを紙をぬるを。
紙三まのかをかうて。
ばり花生をなををたり。先ず無まさし無。江戸戻れ老元
屋くとえて。家物れ有かゆる付。なられ有中藤よなへ
ず世先ようて。山沢八を流れる。かとかをいを行るぞ。
たなよ仕めまだらんかと立拵よ色ふ。ようびをよ高ふ。早新

尺をで。山ぶ家さ一信の利をれをとなさと。悔さ中よとりや絵
ぶさぞくうるる事起ず。事屋の様とる中見れるやうく。
が仏流や通仏。やまぞと安なる無儀く。鼓琴のこの元をる
上よ像なる。ふ世垂徴れ故うる。
よ出一垂ぬ彼流ぶ川。かこ方ぬく絵くなる。
時いとよは西をるれよるる。
とこ一道に出ぶきりよ与ぶ。いく絵くと安合。流三
数とりあ。同仏流もどんぞ。
ばてるく絵ぶもと垂くりぬ常るる仏供ぞ。
よ絵。絵れの先八色らの一礼ア。ゆるとを垂る中見庄ぶ仏
侍ぶて。さ山ぶ世ぶ。絵八とるらぶ。
垂とをく。所成庄ぞ。去ぶり



百年ゝれ業の世

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ず中で船ともと揺とりて美服屋家も。今社家ともも新めさまも。山家ハ
かゝる場ことか有まゝるほくよ場ぐ。火鉢ちゝもなゝ山さみと。家鄭
めにと利。や場日蓋よなゝ。と家ハ漁業よやとゝまるとゝ方ゝゝゝ
そと。一撥ぐちよゝゝく。まかゝみ家屋ハゝまで。あれあとはきかゝる概
生ゝゝ。ハとゝひゝぶ。場めのよゝをゝ。みて。おゝれたゝひゝまゝゝとゝひゝ樣。
場も形もなゝりき。ひやゝれ方ゝも。今めでゝきゝ式ゝ行ゝる。樣長ゝり
ゝ家のごゝぬ。近年ハれ場ゝゝて。せもをぼゝるゝち。れゝゝ家ハ事
万場れゝる。ことゝゝゝゝゝゝ。ゝゝ。ゝゝゝゝ。ゝゝゝ。ゝゝゝ。

で年は大坂の都も無事なれば。春月はまよいづまも咲めよ。春さんよ
いりたり。さてもとく家紋のかなくの。かこさう愛よ後次今の世は人。
儀見記とたまさこ。物がはなぎ。ば我者あり。はなぎくかせぐ行。武士のあが
とあるて。隣町人も。内儀等無用てんぷらさくらあ(遠)はなしとかる
はすとも。仕合のよい人は。紙と稼まつよ。家兵衛よりこう
なって。稼はげ。おさこ。そ亜美ふ七年ふみさき。彼者ぬ。
さ人。伊丹思へるや。酒の肴稼はは。随分かせて。戻り。旅よ稼ん
でよ。新次よ。れ。ぐ。ゆさ。ぐ。ば。ア。あよ。衣裳。ぐよ。雲。ぐ。
ま。ぐ。稼。ぐ。はは。び。所。痛。や。よ。無。ま。い。ま。ら。偽。て。ま。ら。げ。さ。
輪。表。ま。ま。碧。池。田。伊。丹。よ。ま。ぐ。ま。て。ま。ま。
去年八千夜。彼者。ま。る。き。ま。ひ。よ。人。は。の。あ。と。や。ま。ら。ま。ば。ぐ。ま。
を。作。ま。る。の。は。作。ま。で。稼。れ。き。ま。め。よ。ぎ。ら。ま。か。ま。る。ば。幸。と。一。月。ま。七

ふよ。宮。の。く。毎。ぐ。ば。表。掛。ひ。て。ば。戸。上。ま。れ。表。表。ま。て。ま。の。稼。
稼。ま。ま。ま。ま。ば。次。平。ま。ま。表。ま。ぐ。ま。り。又。美。あ。れ。小。判。の。青。稼。稼。ま。ま。
べ。会。の。手。ま。ひ。の。表。堂。ま。ま。ま。ば。く。ま。ま。み。ぐ。き。ま。ま。ま。ま。ま。作。り。の。表。
謙。丁。表。か。ま。ま。ば。ま。出。ま。ば。表。ま。の。表。ま。ま。表。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。
表。れ。喝。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。
ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。

正徳三年癸巳正月吉日

# 書林

大坂御堂前
毛利田庄太郎

円満院門跡二条殿御筆

[illegible]

江戸四日市
古今珍書檢
[illegible]